

ル北部沖にみられたが5～6月に稚仔魚ごく少数見られただけであつた。これらの稚仔は西グリーンランド沖とデンマーク海峡で採集せられた。デンマーク国生物学者は多年西グリーンランド水域で稚仔魚調査を続けて来たが1963年にとれた稚仔魚数は最低記録と報告している。

「1963年グリーンランド近海は冬比較的暖かつたが、それに続く春季は冷たく、水柱は長期間転倒循環を経たため、植物プランクトン生産が遅らされ、稚仔魚への食餌供給は僅少で、その結果ひどい稚仔死滅を生じた」と彼らは考えたが、海況観測と動植物プランクトン採集はこの仮説の正しいことを裏書しているようである。

アイスランドの研究者は1964年にアーミンガー海(アイスランド西方)でとれたメヌケ(赤魚)の稚仔がこれまでの年よりもずつと小型だつたと報告している。気象定点アルファ(62°N、33°W)での観測者はメヌケを釣つて、当域に大きな未開発の魚群のいることを報告した。ドイツの観測では、1400m深まで水温一塩分一深度自記計(パチゾンデ)を用いて多数点で始めて南部グリーンランド沿海の水柱の微細構造と共に予想外な水柱の複雑さを知り、沈降して北大西洋深層水を形成するものと推察した。タラ、メヌケ(赤魚)の天然餌料となつているのはカラヌス属、スピラテラ属のようなものと判定された。

(宇田道隆)

8 マイワシ南下資源回復の兆

東海区水産研究所1964年11月号「漁場海況概報」によると、「東京湾内中の瀬」木更津沖で11月中旬一時大羽マイワシ漁獲があつたが、1964年夏の同海域や駿河湾での中羽マイワシ漁と関連して、マイワシ資源の分布につき、興味ある事柄といえよう」とある。又南海区水研沿岸資源部刊の「南海区漁海況予報」(昭和39年12月号15号)によると、

「イワシ類……太平洋側房総系とみられる北方系のマイワシ親魚群が1月にひきつづき12月にも南下したとみられる。量的には多くないが、土佐湾中部、日向灘中南部沿岸で大羽マイワシが、釣、流刺網、旋網等によつて漁獲されている。産卵調査によつても日向灘水域で前年以上のマイワシ卵が採集されており、この海域でのマイワシ資源は復調の兆があるとみられる。」さらに長崎県水産試験場刊「漁況」№103(昭和39年11月)によると、「昭和39年11月長崎魚市水揚高(Kg)、沿岸の小網では中旬末より五島灘の北部で大羽ウルメ(マイワシ混り)の漁獲が続き、長崎魚市水揚マイワシ、ウルメは近年で最も多く、カタクチの水揚も悪くない。」

(宇田道隆)

年\魚種	マイワシ	カタクチ	ウルメ	マアジ	サバ	ブリ
39	205,511	354,115	687,688	5,323,491	1,193,412	56,892
38	0	371,904	137,130	4,385,341	1,403,291	114,815
37	17,077	214,375	119,358	5,114,748	427,414	134,400
36	14,797	260,985	265,272	10,021,880	807,888	137,992
35	5,696	659,872	593,280	11,613,224	871,606	102,351

9 質 問 箱

(1) 世界一流れの速い海流はどこにあるか？

(答) 英国の新調査船 "Discovery" 号は最近船を漂流させて陸岸をレーダー標定してソマリ海流を実測、流速7ノットを岸から2~3裡で発見した。従来ここで距岸50マイル以内約3ノットの流速とされていた。この強流は全く浅く、200m深では0.5ノットに落ちるといふ。

(2) 世界一塩分の濃い海はどこか？

(答) 英国の "Discovery" 号が最近アデン湾内に約1マイルはいつた凹みの深さ2200m深から採水した試水は水温44℃で、塩分は驚くなけれ320%。(1リットルの水に320グラムの塩分量)でその温度での飽和量370%に近かった。成分は目下分析中。とにかく死海(本当は鹹湖)の200%の記録を破つた。海底に塩の沈澱があつたのか、火山作用のためかなどという解釈もある。

(宇田道隆)